

とちぎの特別栽培農産物栽培管理計画書

確認機関名	塩谷アグリテック
計画提出日	27年1月31日
登録番号	08-001-002-001~027

生産者	杉山修一	品種名	コシヒカリ・いのちの壺
住所	栃木県塩谷郡塩谷町肘内742	ほ場	様式6-1-水稲普通期参照
電話	0287-46-0741	栽培面積	73705 m ²
作目・作型	水稲 普通期栽培	収穫期間	9月10日～10月15日

(計画)

○作業内容 コシヒカリ・いのちの壺等

単位：農薬 kg/10a 又はリットル/10a、肥料 kg/10a)

作業名	年月日	資材名	施用量	成分回数・窒素施用量	備考
耕起作業	26.11				ロータリー耕
耕起作業2回目	27.1.5～ 27.2.20				ロータリー耕
レーザーレベラー	27.1.10～ 27.3.30				レーザー整地
有機質散布	27.3.上旬～ 27.4月	屑大豆	0～100 kg		ブロードキャスト
種子消毒	27.03.上旬	温水			温湯消毒
播種	27.04.中旬 以降	粒状培土 有機栽培用粒状培土 化学肥料及び節減対象 農薬及び有機農産物の 別表の2の農薬不使用 培土 発酵鶏糞 スリヤグアノ	82.5% 0～1.5kg 0.6kg		10畝20枚換算 播種機使用床土下層 に床土箱詰、発酵鶏 糞散布、スリヤグア ノ散布、床土表層箱 詰め、散水、播種、 覆土
発芽	播種後5～ 7日				育苗ハウス内に積み 上げ簡易発芽を行う
育苗	発芽確認後 ～田植え終 了まで	水を保つためのシート 等 地下水			育苗ハウス使用
耕起作業第3回目	27.3. 上旬 ～4月				ロータリー耕
水管理作業	27.4月 上 旬～ 落水まで	水管理については場長 にお問い合わせくださ い。			軽トラック、1.5ト ン、2トン車等を使 用
代掻き作業	27.04.上旬				代かきハロー

代かき作業第2回目	1回目の代かき後にコナギの発芽そろいを確認後に行う				代かきハロー
植え代作業					代かきハロー
田植え作業	27.05.下旬から6月15日	マグマリーン スリヤグアノ	20～40 kg 20 kg		田植え機使用、薬剤及び肥料同時散布 植え付け坪あたり株数37～48株植え
第抑草作業	27.6.5～27.7.5 7.5以降	圃場内のコナギ、オモダカ、ヒユ、クログワイ等の発生状況に合わせて行う			竹箒及び抑草機使用 手取り作業
土壌改良材流し込み	27.05.25	海洋深層水1ヘルツ	0.1リットル		水口から流し込み
肥料散布	27.6.25～27.7.5	マグマリーン スリヤグアノ	0.1 kg 0.1 kg		ブームスプレーヤで散布
肥料散布	27.7.6～27.8.5	マグマリーン スリヤグアノ	0.1 kg 0.1 kg		ブームスプレーヤで散布
収穫、乾燥	27.09.中旬から10月上旬				自脱コンバインによる収穫及び遠赤乾燥機による乾燥
調整作業	出荷に合わせて順次調整				粗撰、粳すり、網目選、石抜き、色彩選、水分選、袋詰、特裁格付け、農産物検査以降出荷

○資材の使用内容

農薬成分回数		
成分回数	基準値	使用割合
0	16	不使用

窒素施用量 (kg/10a)		
窒素量	基準値	使用割合
0	8	不使用

○使用資材の成分内訳等

農薬名	成分名
不使用	不使用

化学肥料の名称	窒素成分割合 (%)
不使用	不使用

(実 績)

その2

圃場

○作業内容

コシヒカリ・いのちの壺等

(単位：農薬 kg/10a 又はリットル/10a、肥料 kg/10a)

作 業 名	年月日	資材名	施用量	成分回数・窒素施用量	備考
耕起作業	26.11				ロータリー耕
耕起作業 2 回目	27.1.5 ~ 27.2.20				ロータリー耕
レーザーレベラー	27.1.10 ~ 27.3.30				レーザー整地
有機質散布	27.3.上旬~ 27.4 月	屑大豆	0 ~ 1 0 0 kg		ブロードキャスト
種子消毒	27.03.上旬	温水			温湯消毒
播種	27.04.中 旬 以降	粒状培土 有機栽培用粒状培土 化学肥料及び節減対象 農薬及び有機農産物の 別表の 2 の農薬不使用 培土 発酵鶏糞 スリヤグアノ	8 2 . 5 畝 0 ~ 1.5 kg 0 . 6 kg		1 0 畝 2 7 枚換算 播種機使用床土下層 に床土箱詰、発酵鶏 糞散布、スリヤグア ノ散布、床土表層箱 詰め、散水、播種、 覆土
発芽	播種後 5 ~ 7 日				育苗ハウス内に積み 上げ簡易発芽を行う
育苗	発芽確認後 ~田植え終 了まで	水を保つためのシート 等 地下水			育苗ハウス使用
耕起作業第 3 回目	27.3. 上旬 ~ 4 月				ロータリー耕
水管理作業	27.4 月 上 旬~ 落水まで	水管理については場長 にお問い合わせくださ い。			軽トラック、1.5 ト ン、2 トン車等を使 用
代掻き作業	27.04.上旬				代かきハロー
代かき作業第 2 回目	1 回目の代 かき後にコ ナギの発芽 そろいを確 認後に行う				代かきハロー
代かき作業第 3 回目	クログワイ の発芽確認 後に行う				代かきハロー
植え代作業					代かきハロー
田植え作業	27.06.01~6. 07 日	マグマリン スリヤグアノ	20 ~ 40 kg 20 kg		田植え機使用、薬剤 及び肥料同時散布 植え付け坪あたり株 数 3 7 ~ 4 8 株植え

抑草作業	27.6. 25 ~ 27.7.10 7.10 以降	圃場内のコナギ、オモダカ、ヒエ、クログワイ等の発生状況に合わせて行う			抑草機使用 手取り作業
土壌改良材流し込み	27.05.25	海洋深層水 1 ヘルツ	0.1 リットル		水口から流し込み
収穫、乾燥	27.09.下 旬 から 1 0 月 中旬				自脱コンバインによる収穫及び遠赤乾燥機による乾燥後
調整作業	出荷に合わせ順次調整				粗撰、粃すり、網目選、石抜き、色彩選、水分選、袋詰、特裁格付け、農産物検査以降出荷

○資材の使用内容

農 薬 成 分 回 数		
成分回数	基準値	使用割合
不使用	1 6	1 0 割減

窒素施用量 (k g / 1 0 a)		
窒素量	基準値	使用割合
不使用	4 kg	1 0 割減

○使用資材の成分内訳等

農 薬 名	成 分 名
不使用	不使用

化学肥料の名称	窒素成分割合 (%)
不使用	不使用

○栽培記録の確認

栽培管理記録の確認欄 (署名・印)	これまでの農薬成分回数及び化学肥料施用量 (kg/10a)		備 考
	農薬成分回数	窒 素	
27年9月15日 小野崎勇治 	0 回	不使用	書類及び圃場確認済み
年 月 日 印	回		
年 月 日 印	回		

○特記事項

--